

令和6年度（2024年度）

東海市幼児教育研究協議会事業報告

令和7年2月18日（火）

幼児教育研究協議会事務局

1 連携・交流事業

(1) 小学校と保育園・幼稚園・認定こども園との交流

日時	令和6.5.16（木） 6.7（金） 9.20（金） 10.25（金）
会場	大堀保育園・加木屋南保育園→加木屋南小学校校庭
ねらい	小学校の広い校庭に行って他の保育園の友達と遊ぶ
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・加木屋南保育園と大堀保育園の交流を、小学校の校庭を借りて行う。 ・散歩で加木屋南公園に行く際に、行き帰りに小学校の敷地を通らせてもらう。 ・校長先生、教務主任と対面し声をかけてもらう。ドキュメンテーション（写真付きの保育の記録）を先生に渡す。
感想	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校に期待を持てるようにチャイムの音や体育の様子を子どもと見たり聞いたりしながら会話してきたことで、小学校の雰囲気少し感じられると思う。 ・園児の活動や様子をドキュメンテーション等でお知らせすることも含め、今後もできることを続けていきたい。

日時	R6.5.16（木）10:00～10:45 R6.6.20（木）10:40～11:00
会場	三ツ池保育園→三ツ池小学校
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の校庭や校舎の様子をみて、学校の様子を知る。 ・学校の先生に、保育園活動の様子を知ってもらう。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の先生に挨拶したり授業の様子を外から見たりして、小学校の雰囲気を感じる ・年長児が育てている野菜のドキュメンテーションを渡し園児の様子を知らせる。
感想	<ul style="list-style-type: none"> ・校長先生に挨拶したりビオトープを見せてもらったりし、小学校の様子を知ることができた。授業の様子も遠くからであったが、見る事ができた。 ・保育園での様子を知ってもらいたい思いでドキュメンテーションを持参した。今後も継続して小学校を訪問したいと思う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に時期や内容を決めて、計画的に小学校に行かせていただきたい。 ・小学校側はいつでも来ていいと言ってくれるが、授業の邪魔になるといけないため、学校内の様子を見学することを迷う。就学時健診の時に学校の中に入るのが初めてという子もいる。小学校を知るには、数回校舎近くを通るだけでは、難しいと感じる。

日時	7.1.15
会場	加木屋保育園→加木屋小学校校庭
ねらい	小学校の広い校庭に行って遊んでみよう！
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の校庭に興味を持ち探検をする。 ・広い校庭で遊び、就学に向けて期待を持つ。
感想	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭とは違う広い校庭で思い切り走ったり、探索して遊具を見たり、放課の時間に小学生が遊ぶ様子を見たりしたことで、入学後に楽しい時間があることや、校庭をどのように使って過ごすかを知り期待を持つことができた。2月には校舎の中の様子や小学生が過ごしている姿を見せてもらい、さらに期待を膨らませる機会を作っていきたい。見たことのある子や兄弟に会えたことで安心した様子が見られた。

日 時	R6.1.15
会 場	明倫保育園・みどり保育園→明倫小学校
ねらい	小学校ってどんなところ？ 小学校に期待する気持ちを持つ。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校はどんなところなのか実際に見て感じる。たくさんの部屋がある事を実感する ・特別教室の見学（理科室、音楽室、高学年図書室など）、低学年図書室で絵本をみる。 ・部屋に置いてあるものや掲示物に興味を持つ。
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・教務主任の先生の案内で各教室をじっくり興味津々で見学する姿が見られた。理科室では、「おっきいね、足がつかないよ…」と木の椅子に交代して座ったり、1年生の教室にも入ったりすることができた。知っているお兄さん、お姉さんに会い、嬉しそうにしている子もいた。帰園後、「絵本を見たことが楽しかった」「理科室の化石を見ることができたことが良かった」など、子どもたちからの言葉もが聞かれた。校舎内や授業の様子を見せていただくことは初めてだったので、小学校のイメージや、期待する気持ちが持てたようで、貴重な機会となった。次回は、校庭の遊具で遊ばせてもらうなど、継続して小学校とつながっていきたい。

2 研究紀要

・「子どもの心が動くとは」

—遊びの中で心が動いた場面から考える—

大堀保育園

・「子どもが気付きや学びを得ながら遊びを進めていくために」

—5歳児のエピソードを通して—

大田保育園

・「子どもたちが深い学びを得るために」

—継続した活動から深い学びに繋がる保育者の関わりを考える—

東海めぐみ幼稚園

3 保育参観
《三ツ池保育園》

①④⑧⑨はドキュメンテーションの下線部分の番号

◆3つの資質・能力の視点から捉える

「10の姿」の読み取りから、クラスの子どもの育まれている資質能力について整理する。

「知識及び技能の基礎」

- ・物の使い方が身についている(塗る場所により鉛筆を立てる・寝かす・ハサミを滑らせてポリ袋を切る)
- ・大きい台紙に大きい紙を貼る方法を経験から応用。
- ・お菓子は個包装だと持ち帰りやすい。ペンを使えばポリ袋に描ける。テープの粘着の可否はわかっている
- ・ひらがなへの興味を持ちながら活動する。
- ④輪つなぎを並べ長さを図り、足りないことに気付く。
- ・マイクが倒れそうな重さの感覚や法則性の芽生え。
- ・コマの台に塗る絵具の量を感覚で知っており調節する
- ①見せ方等お客さんの視点から考えて作る。
- ・フラフープの絵、形や空間認識、表現方法を知り描く。
- ・友達に自分の知識を伝えることで、教えてもらった子の知識も豊かになる。

「思考力・判断力・表現力の基礎」

- ・「かっこいい色」と紹介する。”見せる”ほうがより伝わるのがわかり見せにいく。
- ・コマ:技、コースを工夫。台に塗る色を友達と調整する。
- ・輪つなぎが壊れそうなときに優しく持ち上げる。輪つなぎの長さが足りない時、手分けして合理的に長さを測りに行く。
- ・数の概念「77個いる」「今は26個」だからまだ作らなくちゃ。
- ・保育士の声掛けで納得し。活動の区切りを付け自分から片づける。
- ・クイズチーム:人から見た意見を参考にする。
- ⑨2人だと疲れて大変→新しい発見や困り感→考える姿→「3人で手分けして鳴らすことにしたよ」

楽しい会にしたいな

- ・やりとげた気持ち、充実した気持ちが振り返りの際に見られた。
- ・得意なこと、好きなことが互いにわかり役割を分担する
- ・けん玉:もっと上手になりたい、こうした方が成功率が上がると科学的な根拠に基づいて遊んでいる。できる子の体の使い方や持ち方などを見て探求し取り入れる。
- ・ポスターの色塗りをする時オレンジで塗りたい→無いな!→黄色に赤を塗り重ねてオレンジにした。
- ・クイズチームの振り返り:小さい子でも答えられるような問題を作った。イチゴの形が人参に見えると指摘した子が「色を塗るとよい」とアイデアも出していた。
- ・ハサミで切る活動に疲れてきた子に気が付き、変わってあげる。
- ・友達が発表をすると、自然と拍手ができる。
- ・飴づくり:中身は見えないが本物みたいにしたから色を塗る。
- ・友達が踏みそうなものをさりげなく退かす。
- ・同じチームだから一緒にする、みんなで作っていく意識が持っている。(2人で一緒に作る・人数が多くても一緒にそろえて発表する)
- ⑧友達の成功を喜びあう。観察して自分のものにしようとする力につながっている。

「学びに向かう力・人間性」

今後幼保小でできること

- ・人を信じる気持ち、助けてもらえる信頼感が、小学校の新しい生活でも先生や友達にわからないことを聞いたり、助けを求めることができる姿につながる。仲間作りにもつながる大切なことだと思う。
- ・今までの関係性の中で、失敗しても大丈夫という心の安定感があることは、入学しても安心して生活することにつながる。
- ・幼稚園はカリキュラムに追われているところがある。やりたいことが継続してできるということは、子どもたちの安心感につながる。幼稚園でも取り入れたいと思った。明日に向けて「こうしたい」という子どものキラキラした姿をみることができた。
- ・遊びの見通しを持ち、遊びに満足したうえで区切りを自分で考えていけるような力をつけていけるようにしたい。
- ・振り返りの時間により、自分がどのように取り組んだか振り返ることが大切。そこででてきた課題から、課題解決に向かうことが大切。小学校生活において、保育園で振り返りをする経験をしていることがつながっていく。
- ➡保育園では振り返りは小さい時から行っている。小さいうちは「保育者」対「子」での振り返り。年長になってくると「子」対「子」で振り返りをしている。最初は小さな集団や短い時間から行っている。静かに人の意見を聞く時間があることは大切。
- ・目標、やることを明確にすることが、みんなで作り上げる気持ちにつながる。目的を1つに絞ることで集中できるし、やり遂げた達成感や自信につながる。
- ・カリキュラム等に違いがあることをお互いを知る。子どもの姿を観察し合い、教育や保育における環境が子どものどのような育ちにつながるのか、対話を重ねていくことが大切だと思う。